**教育実習生　教育講演**

**テーマ『教えることと育てること』**

**２０１９．６．３．（月）**

**大阪府立八尾高等学校**

**〇教えること…マニュアル通り教えるだけならアルバイト学生にもできます**

**・マニュアルからの脱却　…　『型破りの人間か形無しの人間か』**

　　　　　ⅰ　従来からの教え方をまず身に付けるとともに、生徒がわかりやすく思える

工夫を凝らした指導法を生み出す努力が必要です。

　　　　　ⅱ　生徒が理解できているかどうかは、生徒のノートを見ればわかります。授業

中何度か生徒の周辺を歩き、生徒のノートに目をやることです。

　**・失敗を恐れない**

　　　　　　　居直るわけではないけれども、最初から上手く教えられるはずがないと考え、自信をもって授業を進めることが大切です。できれば先輩教師から失敗談をたくさん聞くことです。

**・『知らざるを知らずと為す是知るなり』**

　　　　　　　生徒はよく先生を観察しています。正直で熱意のある先生を信頼します。質問を受けた時に、知ったかぶりをするのではなく、知らないものは知らないと正直に話すこと。しかし、きちんと調べてあとで教えてやる熱意が必要です。

**〇育てること**

　**・一対一の対応　…　１クラス５０人いても、５０：１ではなくて１：１の関係を心**

**がけること。**

　　　　ⅰ　　懇談会ばかりではなく、できる限り多くの生徒との話し合いの場を持つこと。たとえ短い時間でもいいから、生徒に話しかけること。『連絡ノート』の存在は大きい。生徒の声に耳を傾けることができます。

　　　　ⅱ　　授業中の『先生』と『生徒』の関係の時よりも、休み時間の廊下などで話を

している『生徒』と『生徒』の時の生徒の姿こそが、普段のその生徒の姿で

あることが多い。聞いていないふりをしながら、注意深く観察することです。

　　　　ⅲ　　約束したことは必ず守る。守れない約束は生徒としない。約束を守らないの

は生徒の信頼を失う第一歩です。

　**・言葉の大切さ**

　　　　ⅰ　日常の言葉遣いの大切さ　…　言葉の裏に隠れている教師の人格

　　　　　　　　多くの生徒は教えてもらっているという立場から、年上の人・目上の人として『先生』を見ています。保護者も、わが子が世話になっているからという思いから、『先生』に一歩譲った態度をとります。偉そうな言葉遣いをされても、我慢して黙っているだけです。たとえ自分よりも年下の若造であっても…です。

　　　　　　　　　　　↓

だから、それは心から『尊敬』していることとは必ずしも一致しません。

　　　　　　　⇒信頼を得、尊敬される教師を目指すには

**『呼び捨てや怒鳴り声はやめ、同じ目線で穏やかにゆっくり話す。』**ことを心がける。生徒や保護者に対する彼らの人格を尊重した言葉遣いが大切です。

　　　ⅱ　『患者に対する医者の一言、生徒に対する教師の一言』の影響力を考える

　　　　　　　　病気で心が弱っている患者や、勉強や受験に不安や心配を抱いている生徒に、どのような言葉で話しかけるのか。

　　　　　　　　　　　↓

　　　　　　　　　　患者や生徒・保護者に夢と希望を与えるものでなければなりません。医師や教師の心の優しさ・誠実さが問われる場面でしょう。

　**・自らの経験を生徒に話す　…　教師と生徒の距離を縮めます**

　　　ⅰ　『先生』はよく勉強して頭が良い人間だ、と生徒の多くは思っています。一方で教師は、自分は失敗も多く何とか努力をしてここまでやってきた、と考えている方が多い（と思います）。このギャップを埋めることが、教師と生徒の距離を身近なものにするのです。

　　　　　　　　　　　↓

　　　　　　　　　　教師は自分の失敗談を生徒に語ってやるべきです。『先生も自分と同じ人間だ。教える者と教えられる者との立場が違うのだ。そして先生は努力をした結果、自分たちを指導できる立場にあるのだ』という思いを抱かせるのです。先生は自分たち生徒の先輩なのだという気持ちを持たせることが、生徒と教師の信頼関係を深めることになります。

　**・保護者との信頼関係をいかに高めるか　…　一例として『電話作戦』**

　　　　ⅰ　学校から電話がかかると保護者はどのような思いで受話器を取るでしょうか。たいていは、『けがをした』『喧嘩をして相手を傷つけた』『遅刻が多い』等、碌なことはありません。電話の前で受話器を片手にペコペコ頭を下げている保護者の様子が目に浮かびます。

　　　　　　　　　　↓

　　　　　　　　　このイメージを一掃すべきです。むしろ逆手にとって信頼関係構築に役立てるべきです。

　　　　　　　⇒　何でもいいのです。『掃除を丁寧にしていた』『数学でとても良い質問をして、数学の先生から褒めていただき担任として鼻が高い』『友達にこのような思いやりのある言葉をかけていた』『クラブで後輩の面倒をよく見てくれる』『成績が向上してきた』等、ちょっとした些細なことでも、保護者に電話で伝えてあげるといいのです。

　　　　　　　　　　　　↓

　　　　　　　　　　　親は我が子をほめられて喜び、先生に感謝の念を抱くでしょう。その生徒は『親を喜ばすことができた』ことに嬉しく思うとともに、そのような点にまで自分に対して目配りしてくれているのかと、教師に対して信頼を厚くすることになります。

　**・自分が『先生』として行き詰まったときに　…　一人で悩まない**

　　　　　自分の手本となる『先生』を持っておくことです。実際に指導を受けた先生でも良いし、架空の理想像としての先生でもよろしい。困ったときに相談できる先生の存在や、もしその先生ならどうされるのだろうかと考えるだけで、打開の道が開けてくるように思います。

**◎『教えること』と『育てること』のまとめ**

　『教える』ことの研究は様々な『教授法』という形で、理論的な研究も進んでいると思います。それを学び、身に付け、改善していけばいいでしょう。『育てる』ことが難しいのです。理論通りにはいかないことも多いからだと思います。４０年以上たった今でも、私は『自分は育てることにまだまだ未熟だな』と思える時があります。

　教えることと育てることとは全く別の分野にあるのではなく、重なり合う部分も多いと考えられます。その中で指導者が最も心掛けなくてはならないことは、生徒諸君に対する『動機付け』ではないかと考えています。

　　　　↓

　　　**勉強に対する動機付けや夢を抱くことへの意識づけに成功したならば、子供たちは自ら学び育っていくことになると思えるからです。**

　最後に私が心に留めている言葉を２つ、お伝えします。一つは、京都知恩院のご住職を長らく勤められた後、上宮学園の理事長をされた安井良道先生のお言葉です。一昨年お亡くなりになりましたが、上宮学園の校長先生の時の、２０年ほど前にお聞きした言葉です。

　　**『教師とは、教えることばかりではなく師として尊敬されなくてはならない。教育とは教えることばかりではなくて育てることもしなければならない。』**

二つ目は、『文武不岐』『文経武偉』（「文」と「武」は本来分けられないものであること。学問においても集中力や忍耐力など「武」の要素が不可欠であり、一方スポーツにおいても「文」の要素が不可欠である。）を唱えられた、嘉納治五郎先生のお言葉です。講道館柔道の館長としてばかりではなく、２０年以上も東京高等師範学校の校長を務められた、根っからの教育者です。

　　**『教育のこと　天下これより偉なるはなし　一人の徳教　広く万人に加わり　一世の化育　遠く百世に及べり』**

教育のすばらしさを表すとともに、その責任の重さをも表していると思いますが、一人ひとりの人間にきちんと教育を施していくということは、多くの人に影響を与え、万人の教育につながる。その教えは一代で消えることはなく、世代を超えて１００年後の社会を支えていくことにもなる。